

20020829

厚生労働科学研究研究費補助金  
基礎研究成果の臨床応用推進研究事業

癌治療ペプチドワクチン及びペプチド抗体開発：遺伝子同定から臨床試験まで  
に関する研究

平成14年度 総括・分担研究報告書

主任研究者 伊東 恭悟

平成15年（2003）年 3 月

# 目 次

## I. 総括研究報告

癌治療ペプチドワクチン及びペプチド抗体開発:

遺伝子同定から臨床試験までに関する研究に関する研究 ..... 1-20

伊東恭悟

## II. 分担研究報告

1. 膵癌ペプチドワクチンの臨床研究に関する研究 ..... 21-24

岡 正朗

3. 婦人科癌ペプチドワクチンの臨床研究に関する研究 ..... 25-28

嘉村敏治

4. 遺伝子、ペプチド及びペプチド抗体基礎研究に関する研究 ..... 29-32

七條茂樹

5. 胃癌と大腸癌に対するペプチドワクチンの臨床研究に関する研究 ..... 33-38

藤堂 省

6. 再燃前立腺癌ペプチドワクチンの臨床研究に関する研究 ..... 39-42

野口正典

7. 高度進行癌に対するペプチドワクチンの臨床研究に関する研究 ..... 43-50

山名秀明

III. 研究成果の刊行に関する一覧表 ..... 51-53

IV. 研究成果の刊行物・別冊

癌治療ペプチドワクチン及びペプチド抗体開発:遺伝子同定から臨床試験まで

主任研究者 伊東 恭悟 久留米大学医学部教授

研究要旨:(目的) 遺伝子同定から臨床試験実施までの一連の探索的臨床研究を通じて、上皮性癌に対する治療用ペプチドワクチン及びペプチド抗体を開発する。(結果) 今年度の基礎研究結果として、新規遺伝子を9種類(HLA-A2, -A24, -A26及び-B46が各々2, 4, 2, 1種類)及び32種類のCTLエピトープとなるペプチドを同定した。また、臨床研究結果ではテラーメイド型第Ⅰ相臨床試験を全て(108症例)終了し、早期第Ⅱ相臨床試験を7種類の癌種にて開始した(52症例)。その結果、テラーメイド型レジメを採用した再燃前立腺癌にて良好な成績が得られつつある。(考察) 基礎研究では、本年度に同定したペプチド分子の多くは、腫瘍マーカー(CEA, EZH-2, PSCA)や癌の分子標的(HER2/neu, EGF-R)由来である。この場合、自己癌に対する免疫応答を上記のペプチドワクチンにより強化することが癌細胞増殖抑制に直結すると推測される。また臨床研究では、平成13年度までの成績を参考にし、5つの癌種に対して2つの異なるレジメをもって第Ⅰ相/第Ⅱ相臨床試験を開始した。その結果、中間解析である再燃前立腺癌で10例中2例のpartial response (PR) が得られた。さらにprogressive disease (PD)の8例も低容量エストラムスチン併用にて4例がPRという初期の目標にほぼ近い臨床効果が得られた。以上の成績から、平成15年度からは新規のペプチドを17種類から24種類に増加し、更なる高い臨床効果、かつ長い持続期間の成績を目標として第Ⅰ相/早期第Ⅱ相臨床試験を開始する予定である。

■ 分担研究者

岡 正朗	山口大学医学部教授
嘉村 敏治	久留米大学医学部教授
七條 茂樹	久留米大学医学部助教授
藤堂 省	北海道大学医学部教授
野口 正典	久留米大学医学部講師
山名 秀明	久留米大学医学部教授

束性CD8<sup>+</sup>CTL株を癌局所リンパ球より樹立し、それらにより認識される抗原遺伝子とペプチドを同定し癌ペプチドワクチン分子を決定する。これによりペプチドワクチン候補の拡大と充実をはかる。②抗ペプチド抗体(IgG)産生機序や抗腫瘍性での基礎研究、さらにはSART3, Lck, PSMペプチドに対する単クローン抗体をまずマウスにて作製する。また、それらを用いてペプチド抗体の抗腫瘍作用誘導の分子レベル及び動物実験での解析を実施する。

臨床研究:①再燃前立腺癌(伊東、野口研究者):1)新規開発ペプチドを追加した早期第Ⅱ相臨床試験を開始する。②スキルス胃癌および子宮頸癌(藤堂、嘉村研究者):1)早期第Ⅱ相臨床試験を実施する。③肺癌(山名研究者):第Ⅰ相/早期第Ⅱ相臨床試験を実施する。④大腸癌(山名研究者):第Ⅰ相/早期第Ⅱ相臨床試験を実施する。⑤肝臓癌(山名研究者):1)第Ⅰ相臨床試験を実施する。2)⑥膀胱癌(岡研究者):1)第Ⅰ相/早期第Ⅱ相臨床試験を実施する。

(倫理面への配慮)

1)本研究は「ヒトのクローンに関する研究等」に該当するおそれは全くないと判断される。2) in vitro にて癌特異的キラーT細胞を誘導することを目的として採血する場合は、本研究分担者ら及び他の研究協力医が直接患者に充分時間をとってその目的を説明し、理解と同意の得られた場合に限り15~30ml採血し

A. 研究目的:遺伝子同定から臨床試験実施までの一連の探索的臨床研究を通じて、上皮性癌に対する治療用ペプチドワクチン及びペプチド抗体を開発する。基礎研究ではHLA-クラスI A及びBアレルに拘束される拒絶抗原遺伝子を新規に50以上、ペプチドでは100以上同定し、さらに抗ペプチド抗体の抗腫瘍性の分子機構解明や単クローン抗体による癌治療動物モデルなどを通して上皮性癌拒絶の分子基盤の全体像を明らかにする。抗ペプチド抗体の前臨床試験を開始する。一方、臨床研究では本研究期間内にHLA-A24及びA2癌ペプチドワクチン第Ⅰ相及び早期第Ⅱ相臨床試験を終了させ、企業主導型の医薬品化を目指した臨床試験へ移行させる。この場合、再燃前立腺癌、スキルス胃癌、子宮頸癌を優先させる。

B. 研究方法:基礎研究(伊東、七條研究者):

①HLA-クラスI Aアレル(A24, A2, A26, A31)拘束性CD8<sup>+</sup>CTL株及びHLA-Bアレル(B46, B52)拘

て研究に供している。3)臨床試験についての配慮点:①GMPグレードのペプチドを米国NCI外科における臨床試験の基準にのっとり米国MPS社へ依頼して作成し(Nature Med.4:321,1998)無菌試験及びシーケンスを本研究室にて再確認した後、本学内での審査委員会での審査を経て臨床試験を実施する。4)臨床試験実施においては、本研究の分担者(医師)が専任の臨床研究看護師とともに被験者から文書での自由意志による十分な説明を受けた上での同意(インフォームド・コンセント)を得て常時実施する。さらに、担当医師や看護師を中心として被験者及びその家族の疑問に答え不安に対応するための常時カウンセリングを行う体制を可及的にひいている。

C. 研究結果:平成14年度基礎研究結果:①新規遺伝子を9種類(HLA-A2, -A24, -A26及び-B46が各々2, 4, 2, 1種類)を同定した。それらの遺伝子のコードする新規ペプチド同定は16種類であった。②ペプチドワクチン選択幅を拡大する目的にて主な腫瘍マーカーや癌の標的分子由来ペプチドを同定した(HER2/neuより3ペプチド, CEAより2ペプチド, EGF-Rより3ペプチド, EZH-2より5ペプチド, PSCAより1種類)。更にC型肝炎ウイルス由来CTLエピトープペプチドペプチドを6種類同定した。これらは全て知的所有権申請予定であり、かつそれらの多くは平成15年度開始の新規の早期第Ⅱ相臨床試験(テラーメイド型)にて臨床使用予定(再燃前立腺癌, スキルス胃癌, 子宮頸癌, 大腸癌, 乳癌, 膵癌および肝癌に対して)。③ペプチドに対する単クローン抗体(SART3<sub>109</sub>, SART3<sub>315</sub>)産生クローンを樹立した。④SART3分子に対する単クローン抗体の解析により、その診断においては有用であることを示した。

平成14年度臨床試験結果:①テラーメイド型第Ⅰ相臨床試験を全て終了した(108症例)。②早期第Ⅱ相臨床試験を7種類の癌種にて開始した(52症例)。その結果テラーメイド型レジメを採用した再燃前立腺癌にて良好な成績が得られつつある(3ヶ月評価でPR2, SD0, PD8例)。更にPDの8例についてもエストラムスチン併用でPR4例が得られた。また免疫モニタリングにはCTLアッセイよりもペプチド抗体測定が優れていることを明らかにした。これらより再燃前立腺癌では医薬品申請を主目的とする後期第Ⅱ相臨床試験可能なレベルに達したと判断される。③一方、有効ペプチドを非テラーメイド型レジメで投与したスキルス胃癌と子宮頸癌症例では臨床効果の得られなかった(PD0, SD1, PD12例)。

D. 考察:基礎研究:本年度に同定したペプチド分子の多くは、腫瘍マーカー(CEA, EZH-2, PSCA)や癌の分子標的分子((HER2/neu, EGF-R)由来である。癌患

者さらには健康人の末梢T細胞中にこれらのペプチドに反応するキラーT細胞前駆細胞が高頻度に存在することや、血中にIgG抗体が証明できることは全くの新知見であった。上記いずれの5分子も細胞増殖に関与する分子である。また、これまでに我々が同定してきた癌拒絶抗原をコードする新規遺伝子の多くも細胞増殖に関与する分子であった。これらの成績は、発癌防止に免疫系は常に監視機構を保有しており、その研究が発癌に至るといふバーネットの免疫監視機構説(immunosurveillance therapy)をペプチドレベルで立証できるものと考えられる。この場合、自己癌に対する免疫応答を上記のペプチドワクチンにより強化することが癌細胞増殖抑制に直結すると推測される。平成15年度開始の第Ⅰ相/第Ⅱ相臨床試験では上記ペプチドをワクチンとして使用するため高い臨床効果が期待される。

臨床研究:平成13年度までの成績を参考にして、平成14年度には5つの癌種に対して2つの異なるレジメをもって第Ⅰ相/第Ⅱ相臨床試験を開始した。即ち、有効ペプチドを4種類1週間毎に2mg投与するレジメ(非テラーメイド型レジメ)を増殖の比較的早い癌種、かつ比較的若年層の症例が多い3つの癌種(大腸癌, スキルス胃癌, 子宮頸癌)に対して採用した。その結果、中間解析ではあるが15症例中PR(0例)という、平成13年度の臨床成績(PRが30例中5例)に比して極めて不良の成績が得られた。有害事象は局所反応が主体であり、またペプチド反応性も細胞性免疫、液性免疫とも大部分の症例(70~80%)において少なくとも1つのペプチドには確認されている。臨床効果が全く得られなかった理由については、まず投与した4つのペプチドのうち1~2ペプチドに対してのみ細胞性免疫が投与前末梢T細胞中に存在するため、抗腫瘍作用誘導が不十分であったことがあげられる。第2の理由として、今回2mg毎投与のレジメが従来の3mgを2週間毎に投与するレジメに比して癌局所への抗腫瘍作用誘導が不十分であったことが想定される。いずれにしても大腸癌とスキルス胃癌では、この非テラーメイド型レジメによる臨床試験は中断となり、また子宮頸癌においても中断の方向で検討中である。平成15年4月より新規のペプチドを採用してのテラーメイド型レジメを開始する予定である。一方、増殖の遅い癌種のうち比較的高齢者に多い再燃前立腺癌と肺癌に対して、投与前の末梢血リンパ球や血中でのIgG反応性スクリーニングにて選定された4つのペプチドを3mg隔週投与というレジメ(テラーメイド型レジメ)を採用した。その結果、中間解析である再燃前立腺癌でPR(2例)、SD(0例)、PD(8例:この8例も低容量エストラムスチン併用にて4例がPR)という目標にほぼ近い臨床効果が得られた。また有害事象は局所反応主体であり、ペプチドの免疫反応も大部分(80~50%)の症例にて投与ペプチドの殆ど

に対して誘導された。以上の成績から、平成15年度からは新規のペプチドを増加し(17種類→24種類)、更に高い臨床効果かつ長い持続期間の成績を目標として第I相/早期第II相臨床試験を開始する予定である。高度進行肺癌に対する臨床試験では、その途中にてイレッサという新規の薬剤が承認されたためペプチド投与を中断しそちらへ移行する症例が増加した為、臨床試験を中断せざるをえない状況になりつつある。従って、平成14年度中に中断し、平成15年度からはイレッサを含む全ての治療法に抵抗性の症例を対象として臨床試験を開始予定である。

E. 結論:基礎研究:①ワクチン候補ペプチドをコードする新規遺伝子9種類をクローニングし、新規ペプチド同定は32種類に及んだ。これらのうち15種類は平成15年度開始の早期第II相臨床試験にて臨床使用の予定である。②C型肝炎ウイルス(HCV)由来のワクチン候補ペプチドを6種類同定し、平成15年度の臨床試験開始に備えた。③ペプチドに対する単クローン抗体産生株を樹立した。臨床研究:①テーラーメイドペプチドワクチン第I相臨床試験を終了した(108症例)。②臨床効果(PR, partial response)の得られた再燃前立腺癌、スキルス胃癌および子宮頸癌にて早期第II相臨床試験を開始した。これまでに52症例が登録された。③“②”の中間解析にて再燃前立腺癌において良好な臨床成果が得られつつあり、平成15年度では症例数増加やペプチド追加により更なる確認を得る予定である。

F. 健康危険情報:当該研究での臨床試験において、健康危険情報における事項はありません。

#### A. 研究発表

##### 1. 論文発表

【伊東恭悟 主任研究者】

##### 1-1. 論文発表 (英文査読誌掲載論文)

1. Yamada A, Kawano K, Koga M, Takamori S, Nakagawa M and Itoh K, Gene and peptide analyses of newly defined lung cancer rejection antigens recognized by HLA-A2402-restricted tumor-specific cytotoxic T lymphocytes. *Cancer Res.* (in press)

2. Azuma K, Shichijo S, Maeda Y, Nonaka Y, Fujii T, Kenta K and Itoh K, Mutated p53 gene encodes a non-mutated epitope recognized by HLA-B4601-restricted and tumor-reactive CTLs at tumor site. *Cancer Res.* 63:854-858, 2003.

3. Noguchi M, Mine T, Suetsugu N, Katagiri K, Imai N, Tomiyasu K, Suekane S, Kobayashi K, Shichijo S,

Yamada A, Yamana H, Itoh K and Noda S, Induction of cellular and humoral immune responses to tumor cells and peptide in hla-a24 positive hormone-refractory prostate cancer patients by peptide vaccination. *The Prostate.* (in press)

4. Kawamoto N, Yamada A, Ohkouchi S, Maeda T, Tanaka S, Hashimoto T, Saijo Y, Saijo S, Nukiwa T, Shichijo S, Aizawa H and Itoh K, IgG reactive to CTL-directed epitopes of self-antigens is enter lacking or unbalanced in atopic dermatitis patients. *Tissue Antigen.* (in press)

5. Koga M, Shichijo S, Yamada A, Ashihara J, Sawamizu H, Kosukawa J and Itoh K, Identification of ribosomal proteins S2 and L10a as tumor antigens recognized by HLA-A26-restricted CTL. *Tissue Antigen.* (in press)

6. Nonaka Y, Tsuda N, Shichijo S, Ito M, Maeda Y, Harada M, Kamura T, Shigemori M and Itoh K, Recognition of ADP-ribosylation factor 4-like by HLA-A2-restricted and tumor-reactive cytotoxic T lymphocytes from patients with brain tumors. *Tissue Antigen.* (in press)

7. Tsuda N, Nonaka Y, Shichijo S, Yamada A, Ito M, Maeda Y, Harada M, Kamura T and Itoh K, UDP-Gal:beta GlcNAc beta1, 3-galactosyltransferase, polypeptide 3 (GALT3) is a tumor antigen recognized by HLA-A2-restricted cytotoxic T lymphocytes from patients with brain tumor. *Br J Cancer*, 87:1006-1012, 2002.

8. Maeda Y, Hida N, Niiya F, Katagiri K, Harada M, Yamana H, Kamura T, Takahashi M, Sato Y, Todo S and Itoh K, Detection of peptide-specific CTL-precursors in peripheral blood lymphocytes of cancer patients. *Br J Cancer*, 87:796-804, 2002.

9. Gohara R, Imai N, Rikimaru T, Yamada A, Hida N, Ichiki M, Kawamoto M, Matsunaga K, Ashihara J, Yano S, Tamura M, Ohkouchi S, Yamana H, Oizumi K and Itoh K, Phase I Clinical Study of CyclophilinB Peptide Vaccine for Lung Cancer Patients. *J Immunother*, 25:439-444, 2002.

10. Maeda Y, Ito Masaaki, Harashima N, Nakatsura T, Hida N, Imai N, Sato Y, Shichijo S, Todo S and Itoh K, Cleavage and polyadenylation specificity factor

(CPSF)-derived peptides can induce

HLA-A2-restricted and tumor-specific CTLs in the majority of gastrointestinal cancer patients. *Int J Cancer*, 99:409-417, 2002.

11. Komatsu N, Shichijo S, Maeda Y and Itoh K, Measurement of interferon- $\gamma$  by high-throughput fluorometric microvolume assay technology (FMAT) system. *J Immunological method*, 263:169-176, 2002.

12. Ohkouchi S, Yamada A, Imai N, Mine T, Harada T, Shichijo S, Maeda Y, Saijo Y, Nukiwa T, Itoh K, Non-mutated tumor-rejection antigen peptides elicit type-I allergy in the majority of healthy individuals *Tissue Antigens*, 59:259-272, 2002.

13. Nakatsura R, Senji S, Ito M, Nishimura Y and Itoh K, Cellular and humoral immune responses to a human pancreatic cancer antigen, CLP, originally defined by the SEREX method. *Eur J Immunology*, 32:826-836, 2002.

14. Sasatomi T, Suefuji Y, Miyagi Y, Ogata H, Akagi T, Shirouzu K and Itoh K, Expression of tumor-rejection antigens in colorectal cancers. *Cancer*, 94:1636-1641, 2002.

15. Tanaka K, Harashima N, Niiya F, Miyagi Y, Hida N, Ochi M, Imai N, Harada M, Itoh K and Shichijo S, Serine proteinase inhibitor 9 can be recognized by cytotoxic T lymphocytes of epithelial cancer patients. *Jpn J Cancer Res*, 93:198-208, 2002.

16. Yutani S, Tanaka M, Mastumoto H, Imai N, Sata M, Shichijo S, Harada M and Itoh K, Elevation of serum MAGE-4 protein levels and prediction of hepatocellular carcinogenesis in patients with liver cirrhosis. *Jpn J Cancer Res*, 93:453-458, 2002.

17. Hida N, Maeda Y, Katagiri K, Takasu H, Harada M and Itoh K, A simple culture protocol to detect peptide-specific cytotoxic T lymphocyte precursors in the circulation. *Can Immunol Immunother*, 51:219-228, 2002.

18. Suzuki N, Tanaka S, Maeda Y, Hida N, Mine T, Yamamoto K, Oka M and Itoh K, Detection of peptide-specific Cytotoxic T lymphocyte precursors used for specific immunotherapy of pancreatic cancer. *Int J Cancer*, 98:45-50, 2002.

【岡 正朗 分担研究者】

19. Iizuka N, Oka M, Yamada-Okabe H, Nishida M, Maeda Y, Mori N, Takao T, Tamesa T, Tangoku A, Tabuchi H, Hamada K, Nakayama H, Ishitsuka H, Miyamoto T, Hirabayashi A, Uchimura S and Hamamoto Y. Use of oligonucleotide microarray as a novel approach for prediction of early intrahepatic recurrence in hepatocellular carcinoma after curative resection. *Lancet*. (in press)

20. Iizuka N, Oka M, Yamada-Okabe H, Mori N, Tamesa T, Okada T, Takemoto N, Hashimoto K, Tangoku A, Hamada K, Nakayama H, Miyamoto T, Uchimura S and Hamamoto Y. Differential Gene Expression in Distinct Virologic Types of Hepatocellular Carcinoma: Association with Liver Cirrhosis. *Oncogene*. (in press)

21. Matsuoka K, Ueno T, Morita K, Kawano H, Yamaguchi K, Maekawa T, Tangoku A and Oka M. Effects of Moderate Hypothermia on Proinflammatory Cytokines Production in Rat Model of Caerulein-Induced Pancreatitis. *Pancreas*. 26(1):E12-E17, 2002.

22. Yamamoto K, Yahara N, Gondo T, Ishihara T and Oka M. Establishment and Characterization of a new pancreatic cancer cell line, YPK-1. *The Bulletin of the Yamaguchi Medical School*, 49(1-2):33-42, 2002.

23. Hinoda Y, Okayama N, Takano N, Fujimura K, Suehiro Y, Hamanaka Y, Hazama S, Kitamura Y, Kamatani N and Oka M. Association of Functional Polymorphisms of Matrix Metalloproteinase (MMP)-1 and MMP-3 Genes with Colorectal Cancer. *Int J Cancer*, 10:102(5):526-529, 2002.

24. Sasaki K, Sato K, Akiyama Y, Yanagihara K, Oka M and Yamaguchi K. Peptidomics-based Approach Reveals the Secretion of the 29-Residue COOH-Terminal Fragment of the Putative Tumor Suppressor Protein DMBT1 from Pancreatic Adenocarcinoma Cell Lines. *Cancer Res*, 62:4894-4898, 2002.

25. Yahara N, Abe T, Morita K, Tangoku A and Oka M. Comparison of interleukin-6, interleukin-8, and granulocyte colony-stimulating factor production by the peritoneum in laparoscopic and open surgery. *Surgical Endoscopy*, 16:1615-1619, 2002.

26. Nakamura M, Oka M, Iizuka N, Kawauchi S, Gondo T and Ueno T, Tangoku A. Osteopontin Expression in Chronic Pancreatitis. *Pancreas*, 25(2):182-187, 2002.
27. Iizuka N, Oka M, Yamada-Okabe H, Mori N, Tamesa T, Okada T, Takemoto N, Tangoku T, Hamada K, Nakayama H, Miyamoto T, Uchimura S and Hamamoto Y. Comparison of Gene Expression Profiles between Hepatitis B Virus- and Hepatitis C Virus-infected Hepatocellular Carcinoma by Oligonucleotide Microarray Data on the Basis of a Supervised Learning Method. *Cancer Res*, 62:3939-3944, 2002.
28. Iizuka N, Hazama S, Yoshimura K, Yoshino S, Tangoku A, Miyamoto K, Okita K and Oka M. Anticachectic effects of the natural herb *Coptidis rhizoma* and berberine on mice bearing colon 26/clone 20 adenocarcinoma. *Int J Cancer*, 10:99(2):286-291, 2002.
29. Suzuki N, Tanaka S, Maeda Y, Hida N, Mine T, Yamamoto K, Oka M and Itoh K. Detection of peptide-specific cytotoxic T lymphocyte precursors used for specific immunotherapy for pancreatic cancer. *Int J Cancer*, 1:98(1):45-50, 2002.
30. Ueno T, Tangoku A, Yoshino S, Abe T, Toshimitsu H, Furuya T, Kawauchi S, Oga A, Oka M and Sasaki K. Gain of 5p15 detected by comparative genomic hybridization as an independent marker of poor prognosis in patients with esophageal squamous cell carcinoma. *Clin Cancer Res*, 8(2):526-533, 2002.
31. Okayama N, Fujimura K, Suehiro Y, Hamanaka Y, Fujiwara M, Matsubara T, Maekawa T, Hazama S, Oka M, Nohara H, Kayano K, Okita K and Hinoda Y. Simple genotype analysis of the Asp299Gly polymorphism of the Toll-like receptor-4 gene that is associated with lipopolysaccharide hyporesponsiveness. *J Clinical Laboratory analysis*, 16:56-58, 2002.
32. Shimada H, Liu TL, Ochiai T, Shimizu T, Haupt Y, Hamada H, Abe T, Oka M, Takiguchi M and Hiwasa T. Facilitation of adenoviral wild-type p53-induced apoptotic cell death by overexpression of p33(ING1) in T.Tn human esophageal carcinoma cells. *Oncogene*, 4:21(8):1208-1216, 2002.
33. Takano N, Iizuka N, Hazama S, Yoshino S, Tangoku A and Oka M. Expression of estrogen receptor- $\alpha$  and  $\beta$  mRNAs in human gastric cancer. *Cancer Lett*, 176(2):129-135, 2002.
- 【嘉村敏治 分担研究者】
34. Kanamori Y, Kigawa J, Sultana H, Suzuki M, Ohwada M, Kamura T, Sugiyama T, Yoshihiro K, Kita T, Fujiwara K and Terakawa N. P-ten Expression is Associated with Prognosis for Patients with Advanced Endometrial Carcinoma Undergoing Postoperative Chemotherapy. *Int.J.Cancer*, 100:686-689, 2002.
35. Nagao Y, Tomonari R, Kage M, Komai K, Tsubone K, Kamura T and M.Sata, The possible intrasexual transmission of HCV in terms of lichen planus. *Int. J.Mol. Med.*, 10:569-573, 2002.
36. Maeda Y, Hida N, Niiya F, Katagiri K, Harada M, Yamana H, Kamura T, Takahashi M, Sato Y, Todo S and Itoh K, Detection of peptide-specific CTL-precursors in peripheral blood lymphocytes of cancer patients. *Br.J.Cancer*, 87:796-804, 2002.
37. Nonaka Y, Tsuda N, Shichijo S, Ito M, Maeda Y, Harada M, Kamura T, Shigemori M and Itoh K, Recognition of ADP-ribosylation factor 4-like by HLA-A2-restricted and tumor-reactive cytotoxic T lymphocytes from patients with brain tumors. *Tissue Antigens*, 60:319-327, 2002.
38. Tsuda N, Nonaka Y, Shichijo S, Yamada A, Ito M, Harada M, Kamura T and Itoh K, UDP-Gal: BGl cNAc B1,3-galactosyltransferase, polypeptide 3 (GALT3) is a tumor antigen recognised by HLA-A2-restricted cytotoxic T lymphocytes from patients with brain tumor. *Br J Cancer*, 87:1006-1012, 2002.
39. Yahata H, Kobayashi H, Kamura T, Amada S, Hirakawa T, Kohno K, Kuwano M and Nakano H Increased nuclear localization of transcription factor YB-1 in acquired cisplatin-resistant ovarian cancer. *J Cancer Res Clin Oncol*, 128:621-626, 2002.
40. Maeno Y, Rikitake N, Toyoda O, Kiyomatsu Y, Miyake T, Himeno W, Hirose A, Hori D, Kamura T and Kato H, Prenatal Diagnosis of Sustained Bradycardia with 1:1 atrioventricular conduction. *Ultrasaund in Obstetrics&Gynecology*, 2002. (in press)
41. Kamura T, Jeon-J-D, Lymph node metastasis in a gynecologic malignancy, *Yonsei Med J*, 43:783-791, 2002.
42. Kamura T, Kim-Y-T Pitfall in chemotherapy for ovarian cancer, *Yonsei Med J*, 43:779-782, 2002.
43. Tsuda N, Mochizuki K, Harada M, Sukehiro A, Kawano K, Yamada A, Ushijima K, Sugiyama T, Nishida T, Yamana H, Itoh K and Kamura T, Vaccination with pre-designated or evidence-based peptides for p

patients with recurrent gynecologic cancers, *J Immunotherapy*, 2002. (in press)

44. Maeno Y, Ishii M, Himeno W, Hirose A, Akagi T, Kamura T and Matsuishi T, Detection of a focus of paroxysmal atrial contraction in the fetus using tissue velocity imaging. *Images in Cardiovascular medicine*, 2002. (in press)

【 七條茂樹 分担研究者 】

45. Azuma K, Shichijo S, Maeda Y, Nonaka Y, Fujii T, Kenta K and Itoh K, Mutated p53 gene encodes a non-mutated epitope recognized by HLA-B4601-restricted and tumor-reactive CTLs at tumor site. *Cancer Res*, 63:854-858, 2003.

46. Koga M, Shichijo S, Yamada A, Ashihara J, Sawamizu H, Kosukawa J and Itoh K, Identification of ribosomal proteins S2 and L10a as tumor antigens recognized by HLA-A26-restricted CTL. *Tissue Antigen*.(in press)

47. Kawamoto N, Yamada A, Ohkouchi S, Maeda T, Tanaka S, Hashimoto T, Saijo Y, Saijo S, Nukiwa T, Shichijo S, Aizawa H and Itoh K, IgG reactive to CTL-directed epitopes of self-antigens is either lacking or unbalanced in atopic dermatitis patients. *Tissue Antigen*. (in press)

48. Nonaka Y, Tsuda N, Shichijo S, Ito M, Maeda Y, Harada M, Kamura T, Shigemori M and Itoh K, Recognition of ADP-ribosylation factor 4-like by HLA-A2-restricted and tumor-reactive cytotoxic T lymphocytes from patients with brain tumors. *Tissue Antigen*.(in press)

49. Tsuda N, Nonaka Y, Shichijo S, Yamada A, Ito M, Maeda Y, Harada M, Kamura T and Itoh K, UDP-Gal:beta GlcNAc beta1,3-galactosyltransferase, polypeptide 3 (GALT3) is a tumor antigen recognized by HLA-A2-restricted cytotoxic T lymphocytes from patients with brain tumor. *Br J Cancer*, 87:1006-1012, 2002.

50. Maeda Y, Ito Masaaki, Harashima N, Nakatsura T, Hida N, Imai N, Sato Y, Shichijo S, Todo S and Itoh K, Cleavage and polyadenylation specificity factor (CPSF)-derived peptides can induce HLA-A2-restricted and tumor-specific CTLs in the majority of gastrointestinal cancer patients. *Int J Cancer*, 99:409-417, 2002.

51. Komatsu N, Shichijo S, Maeda Y and Itoh K, Measurement of interferon- $\gamma$  by high-throughput fluorometric microvolume assay technology (FMAT) system. *J Immunological method*, 263:169-176, 2002.

52. Ohkouchi S, Yamada A, Imai N, Mine T, Harada T, Shichijo S, Maeda Y, Saijo Y, Nukiwa T, Itoh K, Non-mutated tumor-rejection antigen peptides elicit type-I allergy in the majority of healthy individuals. *Tissue Antigens*, 59:259-272, 2002.

53. Yutani S, Tanaka M, Mastumoto H, Imai N, Sata M, Shichijo S, Harada M and Itoh K, Elevation of serum MAGE-4 protein levels and prediction of hepatocellular carcinogenesis in patients with liver cirrhosis. *Jpn J Cancer Res*, 93:453-458, 2002.

54. Tanaka K, Harashima N, Niiya F, Miyagi Y, Hida N, Ochi M, Imai N, Harada M, Itoh K and Shichijo S, Serine proteinase inhibitor 9 can be recognized by cytotoxic T lymphocytes of epithelial cancer patients. *Jpn J Cancer Res*, 93:198-208, 2002.

55. Yutani S, Tanaka M, Mastumoto H, Imai N, Sata M, Shichijo S and Itoh K, Elevation of serum MAGE-4 protein levels and prediction of hepatocellular carcinogenesis in patients with liver cirrhosis. *Jpn J Cancer Res*, 93:453-458, 2002.

【 藤堂 省 分担研究者 】

56. Nakajima Y, Shimamura T, Kamiyama T, Matsushita M, Sato N and Todo S, Control of Intraoperative Bleeding During Liver Resection: Analysis of a Questionnaire Sent to 231 Japanese Hospitals, *Surgery Today*, 32:48-52, 2002.

57. Ishikawa H, Jin MB, Ogata T, Taniguchi M, Suzuki T, Shimamura T, Magata S, Horiuchi H, Ogata K, Masuko H, Fujita M, Furukawa H and Todo S, Role of cyclic nucleotides in ischemia and reperfusion injury of canine livers, *Transplantation*, 73(7):1041-1048, 2002.

58. Kamachi H, Matsushita M, Okubo H, Kawai T, Nishikawa K, Fujimoto T and Todo S, Rat small hepatocytes for liver support: growth and metabolic activities in culture, *J Artif Organs*, 5:24-29, 2002.



59. Nakagawa T, Takahashi M, Ozaki T, Watanabe K, Todo S, Mizuguchi H, Hayakawa T and Nakagawara A, Autoinhibitory regulation of p73 by  $\Delta$ Np73 to modulate cell survival and death through a p73-specific target element within the  $\Delta$ Np73 promoter, *Molecular and cellular biology*, 22(8):2575-2585, 2002.
60. Maeda Y, Ito M, Harashima N, Nakatsura T, Hida N, Imai N, Sato Y, Shichijo S, Todo S and Itoh K, Cleavage and polyadenylation specificity factor (CPSF)- derived peptides can induce HLA-A2-restricted and Tumor-specific CTLs is the majority of gastrointestinal cancer patients, *Int J. Cancer*, 99:409-417, 2002.
61. Noto H, Matsushita M, Nishikawa M, Okubo H, Kamachi H, Nishikawa K, Fujimoto T and Todo S, Injuriousness of glycochenodeoxycholate and taurochenodeoxycholate to cultured hepatocytes, *J Artif Organs*, 5:30-36, 2002.
62. Watanabe K, Ozaki T, Nakagawa T, Miyazaki K, Takahashi M, Hosoda M, Hayashi S, Todo S, and Nakagawara A, Physical Interaction of p73 with c-Myc and MM1, a c-Myc-binding Protein, and Modulation of the p73 Function, *The Journal of Biological Chemistry*, 277(17):15113-15123, 2002.
63. Nomura M, Yamashita K, Murakami M, Takehara M, Echizenya H, Sunahara M, Kitagawa N, Fujita M, Furukawa H, Uede T and Todo S, Induction of donor-specific tolerance by adenovirus mediated CD40lg gene therapy in rat liver transplantation, *Transplantation*, 73(9):1403-1410, 2002.
64. Nakanishi K, Sakamoto M, Yasuda J, Takamura M, Fujita N, Tsuruo T and Todo S, Critical Involvement of the Phosphatidylinositol 3-Kinase / Akt Pathway in Anchorage-independent Growth and Hematogeneous Intrahepatic Metastasis of Liver Cancer, *Cancer Research*, 62:2971-2975, 2002.
65. Okubo H, Matsushita M, Kamachi H, Kawai T, Takahashi M, Fujimoto T, Nishikawa K and Todo S, A Novel Method for Faster Formation of Rat Liver Cell Spheroids, *Artificial Organs*, 26(6):497-505, 2002.
66. Jin MB, Nakayama M, Ogata T, Fujita M, Mino K, Taniguchi M, Suzuki T, Shimamura T, Furukawa H and Todo S, A Novel lefunomide derivative, FK778, for immunosuppression after kidney transplantation in dogs, *Surgery*, 132(1):72-79, 2002.
67. Konishi K, Inobe M, Yamada A, Murakami M and Todo S, Combination Treatment With FTY720 and CTLA41gG Preserves the Respiratory Epithelium and Prevents Obliterative Disease in a Murine Airway Model, *The Journal of Heart and Lung Transplantation*, 21(6):692-700, 2002.
68. Satoh Y, Esche C, Gambotto A, Shurin VG, Yurkovetsky RZ, Robbins DP, Watkins CS, Todo S, Herberman BR, Lotze TM and Shurin RM, Local administration of IL-12-transfected dendritic cells induces antitumor immune responses to colon adenocarcinoma in the liver in mice, *Journal of Experimental Therapeutics and Oncology*, 2: 337-349, 2002.
- 【野口正典 分担研究者】
69. Noguchi M, Kikuchi H, Ishibashi M and Noda S, Percentage of the positive area of bone metastasis is an independent predictor of the diseasedeath in advanced prostate cancer. *Br J Cancer*, 88:195-201, 2003.
70. Noguchi M, Yahara J and Noda S, Serum levels of bone turnover markers parallel the results of bone scintigraphy in monitoring bone activity of prostate cancer. *Urology*. (in press)
71. Noguchi M, Noda S, Nakashima O and Kojiro M, No residual tumor in a radical prostatectomy specimen after neoadjuvant hormonal therapy for localized prostate cancer. *Oncol Rep*, 9:1075-1080, 2002.
72. Noguchi M, Hirabayashi Y, Kato S and Noda S, Solitary fibrous tumor arising from the prostatic capsule. *J. Urol.*, 168: 1490-1491, 2002.
73. Yahara J, Noguchi M, Noda S, Quantitative evaluation of bone metastases in patients with advanced prostate cancer during systemic treatment. *BJU int*. (in press)
- 【山名秀明 分担研究者】
77. Shiozaki H, Doki Y, Yamana H and Isono K, A multi-institutional study of immunohistochemical investigation for role of cyclin D1 and E-cadherin in superficial squamous cell carcinoma of the esophagus. *J Surg Oncol*, 79:166-173, 2002.

75. Takeuchi M, Hikida S, Shirouzu K, Yamana H and Mizote H, Beneficial effect of short duration flow during organ preservation in rat small bowel transplantation. *Int J Surg Invest*, 3:443-452, 2002.
76. Sasatomi T, Suefuji Y, Matsunaga K, Yamana H, Miyagi Y, Araki Y, Ogata Y, Itoh K and Shirouzu K, Expression of tumor rejection antigens in colorectal carcinomas. *Cancer*, 94(6):1636-1641, 2002.
77. Kubota M, Yamana H, Sueyoshi S, Fujita H, and Shirouzu K, The significance of telomerase activity in cancer lesions and the noncancerous epithelium of the esophagus. *Int J Clin Oncol*, 7:32-33, 2002.
78. Nojiri H, Yamana H, Shirouzu G, Suzuki T and Isono H, Glycotherapy for cancer: remodeling of ganglioside pattern as an effective approach for cancer therapy. *Cancer Detect Prev*, 26(2): 114-120, 2002.
79. Gohara R, Imai N, Rikimaru T, Yamada A, Hida N, Ichiki M, Kawamoto M, Matsunaga K, Ashihara J, Yano S, Tamura M, Ohkouchi S, Yamana H and Itoh K, Phase I clinical study of cyclophilin B peptide vaccine for patients with lung cancer. *J Immunother*, 25(5):439-444, 2002.
80. Yamada A, Yamana H and Itoh K, Development of peptide-based vaccines for epithelial cancer. *Res Adv in Cancer*, 2:241-247, 2002.
81. Maeda Y, Hida N, Niiya F, Katagiri K, Harada M, Yamana H, Kamura T, Takahashi M, Sato Y, Todo S and Itoh K, Detection of peptide-specific CTL-precursors in peripheral blood lymphocytes of cancer patients. *Br J Cancer*, 87(7): 796-804, 2002.
82. Fujii T, Sudo T, Sueyoshi S, Tanaka T, Fujita H, Shirouzu K, Ban S, Toyonaga A, Kato S and Yamana H, Clinicopathologic study of neovascularization and VEGF expression in superficial esophageal carcinoma. *Int J Oncol*, 21(6):1181-1187, 2002.
83. Maeda Y, Hida N, Katagiri K, Harada M, Yamana H, Kamura T, Takahashi M, Sato T, Todo S and Itoh K, Detection of peptide-specific CTL-precursors in peripheral blood lymphocytes of cancer patients. *Brit J Cancer*, 87(7):796-804, 2002.
84. Toh U, Sudo T, Kido K, Matono S, Sasahara H, Mine T, Tanaka T, Sueyoshi S, Fujita H, Shirouzu K and Yamana H, Locoregional adoptive immunotherapy resulted in regression in distant metastases of a recurrent esophageal cancer. *Int J Clin Oncol*, 7(6):372-375, 2002.
85. Fujii T, Nakagawa S, Hanzawa M, Sueyoshi S, Fujita H, Shirouzu K, Yamana H: Immunohistochemical study of cell cycle-related factors, oncogene expression, and cell proliferation in adenocarcinoma developed in Barrett's esophagus. *Oncol Reports* 10(2):427-431, 2003.
- 1-2. 論文発表 (和文査読誌掲載論文)  
**【伊東恭悟 主任研究者】**  
 1. 末次典恵, 田村真由美, 久富瑞穂, 野口正典, 伊東恭悟:再燃前立腺癌患者に対する癌ペプチドワクチン療法の第 I 相臨床試験におけるリサーチナースの役割. *日本がん看護学会誌*, 2002;16(2): 79-88.  
 2. 助廣亜希, 津田尚武, 望月一生, 田村真由美, 雲井加代子, 伊東恭悟:癌ペプチドワクチン臨床試験を受ける再発婦人科癌患者の看護-第 I 相臨床試験へのクリニカルリサーチナースとしての関与を通して-. *日本がん看護学会誌*, 2003;17(1) in press.
- 【嘉村敏治 分担研究者】**  
 3. 杉山徹, 村上文洋, 嘉村敏治:婦人科がんにおける分子標的療法. *日本産科婦人科学会雑誌* 2002;54: 1246-1265.
- 【野口正典 分担研究者】**  
 4. 末次典恵, 田村真由美, 久富瑞穂, 野口正典, 伊東恭悟:再燃前立腺癌患者に対する癌ペプチドワクチン療法の第 I 相臨床試験におけるリサーチナースの役割. *日本がん看護学会誌*, 2002;16(2): 79-88.
- 1-3. 論文発表 (総説・プロシーディング・その他)  
**【伊東恭悟 主任研究者】**  
 1. 峯 孝志, 伊東恭悟, 山名秀明, 白水和雄:テーラーメイドがん免疫治療:ゲノムからベッドへの先導役. *外科*, 南江堂, 2002;64:269-274.  
 2. 野口正典, 平林康男, 野田進士, 山名秀明, 末次典恵, 伊東恭悟:再燃前立腺癌における癌ペプチド療法の展望. *西日本泌尿器科*, 2002;64:253-259.  
 3. 神田達夫, 高橋益廣, 海部 勉, 小杉伸一, 中川 悟, 西巻 正, 伊東恭悟, 畠山勝義:高度進行・再発食

道癌に対する腫瘍拒絶抗原ペプチドでパルスした樹状細胞による癌ワクチン療法. 日本気管食道科学会会報, 2002;53(2):153-154.

4. 伊東恭悟, 山名秀明, 笹富輝男, 峯 孝志: テーラーメイド癌免疫治療: ゲノムからベッドへの先導役. 日本外科学会誌, 2002;103:42.

【岡 正朗 分担研究者】

5. 鈴木伸明, 岡 正朗: 消化器癌のワクチン療法. 消化器外科, 2002;25:1841-1846.

【嘉村敏治 分担研究者】

6. 津田尚武, 嘉村敏治: 高度進行再発婦人科癌に対するCTL precursor-oriented 癌ペプチドワクチンの第1相臨床試験. Biotherapy 癌と化学療法社, 2002;16:501-504.

7. 西尾真, 河田高伸, 原田智恵子, 川越秀洋, 藤吉啓造, 石松順嗣, 綱脇現, 杉山徹, 嘉村敏治: 卵巣外原発性腹膜癌にWeekly Paclitaxel 投与が有効であった1症例. 癌と化学療法 癌と化学療法社, 2002;29:309-312.

8. 杉山徹, 大田俊一郎, 友成廉平, 嘉村敏治: 卵巣胚細胞性悪性腫瘍・卵巣性索間質性悪性腫瘍. 癌と化学療法 癌と化学療法社, 2002;29:1358-1362.

9. 杉山徹, 大蔵尚文, 嘉村敏治: 産婦人科領域. 泌尿器外科, 2002;15:7-11.

10. 杉山徹, 熊谷清介, 嘉村敏治: 婦人科治療における漢方薬. 癌の臨床 篠原出版, 2002;48:153-157.

11. 嘉村敏治: 広汎性外陰切除術. 臨床婦人科産科医学書院, 2002;56:424-427.

【藤堂 省 分担研究者】

12. 古川博之, 嶋村剛, 陳孟鳳, 神山俊哉, 松下通明, 藤堂省: 特集□期待される移植・再生医療—現状と展望 <移植医療の現状と問題点> 肝臓移植 小児内科34(1):57-62, 2002.

13. 喜納政哉, 秦庸壮, 田口和典, 高橋弘昌, 近藤正男, 佐藤裕二, 清水道生, 藤堂省: 胃・卵巣転移を伴った乳腺浸潤性小葉癌の1例 日本臨床外科学会雑誌63(2):324-328, 2002 Feb.

14. 嶋村剛, 陳孟鳳, 鈴木友己, 谷口雅彦, 蒲池浩文, 萩原邦子, 神山俊哉, 松下通明, 古川博之, 藤堂

省: 特集わが国における肝移植の現況と展望 適応拡大への問題点と対策 劇症肝炎症例への移植 消化器外科25(3):297-304, 2002 March.

15. 神山俊哉, 古川博之, 藤堂省: 肝臓手術 肝移植ドナー手術 消化器外科周術期管理のすべて 263-269, 2002 March.

16. 嶋村剛, 古川博之, 藤堂省: 肝臓手術 肝移植レシipient手術 消化器外科周術期管理のすべて 270-278, 2002 March.

17. 松下通明, 神山俊哉, 倉内宣明, 中川隆公, 蒲池浩文, 古川博之, 藤堂省: 特集/肝離断法を考える I. 肝離断法の比較研究 4. 肝切離におけるハーモニックスカルペル vs CUSA, Water jet 外科64(5), 2002 May.

18. 藤堂省, 古川博之, 嶋村剛, 陳孟鳳, 鈴木友己: 肝移植治療法の進歩 (第29回内科学の展望講演) 日本内科学会雑誌91Supplement: 43-50, 2002 March.

19. 嶋村剛, 陳孟鳳, 鈴木友己, 谷口雅彦, 工藤岳秋, 下国達志, 伊東東一, 古川博之, 藤堂省: ICUにおける脳死ドナー管理 Organ Biology9(1):21-32, 2002

20. 嶋村剛, 陳孟鳳, 鈴木友己, 谷口雅彦, 蒲池浩文, 萩原邦子, 神山俊哉, 松下通明, 古川博之, 藤堂省: 適応拡大への問題点と対策 劇症肝炎症例への移植 消化器外科25(3):297-304, 2002 March.

21. 藤堂省, 古川博之, 松下通明, 嶋村剛, 陳孟鳳, 鈴木友己, 谷口雅彦: 特集 生体肝移植の現況と展開 3. 適応 2) B型肝硬変・C型肝硬変・肝癌に対する肝移植 日本外科学会雑誌103(5):408-413, 2002

22. 藤堂省: 巻頭言 臨床外科教育の標準化 北海道外科雑誌47(1):1-2, 2002 June

23. 清水隆文, 植木伸也, 高田尚幸, 田口和典, 高橋弘昌, 伊藤智雄, 藤堂省: 大胸筋内再発をきたした乳癌の1例 日本臨床外科学会雑誌63(2):509, 2002 Feb.

24. 嶋村剛, 陳孟鳳, 鈴木友己, 谷口雅彦, 古川博之, 藤堂省: 肝移植 year note 2003別冊 Selected Articles 239-250, 2002 June.

25. 小橋重親、佐藤裕二、近藤正男、福島剛、正村裕紀、藤堂省:血管新生抑制剤としてのIFN-βの効果 医学のあゆみ202(3):213-214, 2002 July
26. 古川博之、藤堂省:異種臓器移植-Pro:異種移植は臓器不全を救えるか?—血液・免疫・腫瘍7(3):86-90, 2002 July
27. 田口和典、藤堂省:特集:乳癌の診断と治療—新しい展開から II.診断 3.MRIによる乳癌診断 外科64(7):768-773, 2002 July
28. 嶋村剛、陳孟鳳、鈴木友己、谷口雅彦、古川博之、藤堂省:当科における脳死肝移植の経験 今日移植15(4):346-353, 2002 July
29. 藤堂省:移植 慢性肝不全患者の術前治療と移植のタイミング 肝疾患診療のコツと落とし穴194-195, 2002 Oct.
30. 藤堂省:特集 1.本庄一夫記念・肝臓シンポジウム 2.肝細胞癌と肝移植 外科64(11):1242-1256, 2002 Nov.
- 【野口正典】
31. 野口正典、平林康男、野田進士、山名秀明、末次典恵、伊東恭悟:再燃前立腺癌における癌ペプチドワクチン療法の展望. 西日泌尿 64: 253-359, 2002.
32. 古賀寛史、内藤誠二、藤本直浩、道永 成、野口正典、魚住二郎、酒井英樹、金武 洋、濱田泰之、三股浩光、蓮井良浩、西山賢龍、中川昌之、諸角誠人:九州沖縄地区における根治的前立腺摘除術前のネオアジュバント療法の現況-九州沖縄地区アンケート調査結果-. 西日泌尿. 64: 13-21, 2002.
33. 山口晃弘、出口大輔、森 健策、目加田慶人、鳥脇純一郎、野口正典:前立腺摘出標本画像に基づく針生検シュミレーションシステムに関する基礎的検討. 信学技法:19-24, 2002.
34. 野口正典、野田進士、中島 収、神代正道:前立腺癌に対するネオアジュバント療法後 pT0 であった前立腺全摘症例の検討. 泌尿器外科 15: 874-877, 2002.
- 【山名秀明 分担研究者】
35. 唐 宇飛、主藤朝也、木戸浩一郎、田中寿明、末吉 晋、藤田博正、平城 守、堀内彦之、白水和雄、山名秀明:食道癌術後肝転移症例に対する局所細胞免疫療法の試み. 癌と化学療法 29(12):2152-2156, 200
36. 山名秀明:消化器癌のImmunoguided Surgery. 外科 64(1): 67-71, 2002.
37. 末吉 晋、藤田博正、田中寿明、山名秀明、白水和雄:高齢者食道癌の治療—Quality of Lifeを考慮に入れて—. 老年消化器病 14(1):3-8, 2002.
38. 藤田博正、末吉 晋、田中寿明、藤井輝彦、唐宇飛、峯 孝志、主藤朝也、笹原弘子、的野 吾、山名秀明、白水和雄、戸田幸博、早瀬尚文:局所進行食道癌の集学的治療. 臨床外科 57(2): 177-184, 2002.
39. 峯 孝志、伊東恭悟、山名秀明、白水和雄:1.遺伝子技術の進歩と外科臨床, 3.遺伝子技術と免疫治療,—テラーメイド癌免疫治療:ゲノムからベッドへの先導役—. 外科 64(3): 269-273, 2002.
40. 山名秀明:3. 食道癌の治療。8)免疫療法. 日外会誌 103(4): 376-380, 2002.
41. 野口正典、平林康男、野田進士、山名秀明、末次典恵、伊東恭悟:再燃前立腺癌における癌ペプチドワクチン療法の展望. 西日本泌尿器科 64(4): 253-259, 2002.
42. 唐 宇飛、主藤朝也、木戸浩一郎、田中寿明、末吉 晋、藤田博正、平城 守、堀内彦之、白水和雄、山名秀明:食道癌術後肝転移症例に対する局所細胞免疫療法の試み. 癌と化学療法 29(12):2152-2156, 2002.
- 1-4. 論文発表 (著書)
- 【伊東恭悟 主任研究者】
1. 伊東恭悟、片桐和子:免疫療法:初心者も活用できるがん医療・看護〜集学的治療・全人的ケアをめざして〜. 南山堂. 16-22, 2002.
2. Akira Yamada, Hideaki Yamana and Kyogo Itoh: Development of peptide-based vaccines for epithelial cancer. Res. Adv. in Cancer 2. 241-247, 2002.
- 【山名秀明 分担研究者】
3. Akira Yamada, Hideaki Yamana and Kyogo Itoh: Development of peptide-based vaccines for epithelial cancer. Res. Adv. in Cancer 2. 2002;241-247.
4. 井手博子、山名秀明、磯野可一:食道癌、全国集計から見たわが国における食道癌治療の現状. 図説消化器病シリーズ5 食道疾患, 本郷道夫編, pp8-17, メジカルビュー社, 東京, 2002.

5. 山名秀明:3. がん医療における倫理的問題。B.医師の立場から。がん医療・がん看護, 阿蘇品スミ子編, pp35-44, 南山堂, 東京, 2002.

6. 山名秀明:4. 主ながん治療と看護。A.がんのいろいろ, がん全般の一般知識。がん医療・がん看護, 阿蘇品スミ子編, pp53-65, 南山堂, 東京, 2002.

## 2. 学会発表

### 2-1. 海外学会発表(口頭・ポスター発表)

#### 【岡 正朗 分担研究者】

1. Nobuaki Suzuki, Yoshiaki Maeda, Shoko Tanaka, Naoya Hida, Takashi Mine, Koutaro Yamamoto, Kyogo Itoh and Masaaki Oka. Evaluation of Immuno-reactivities using MUC1 Peptide-pulsed Dendritic Cells for Patients with Unresectable Pancreatic Cancer. The 5<sup>th</sup> World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association, Tokyo, Japan. (2002.4.25~29)

2. Koutaro Yamamoto, Tomio Ueno, Yahara Noboru, Tooru Kawaoka, Masaaki Oka. Radical Operation for Invasive Pancreatic Cancer with Hemi-circle Plexus Preservation. The 5<sup>th</sup> World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association, Tokyo, Japan. (2002.4.25~29)

3. Noboru Yahara, Shoichi Hazama, Toru Kawaoka, Kohtarou Yamamoto, Tomio Ueno, Akira Tangoku, Masaaki Oka. Evaluation of Immuno-reactive using MUC1 Peptide-pulsed Dendritic Cells for Patients with Unresectable Pancreatic Cancer. The 5<sup>th</sup> World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association, Tokyo, Japan. (2002.4.25~29)

#### 【嘉村敏治 分担研究者】

4. Ushijima K, Sugiyama T, Kamura T, Tomonari R, Shinagawa A, The Clinical Effects of Chinese Herb Medicine for Paclitaxel-induced Neuropathy and CPT-11-induced Diarrhea. The 9th Biennial Meetings of the International Gynecologic Cancer Society, Seoul, Korea. (2002.10.20~10.24)

5. Yahata H, Ushijima K, Yasugi T, Saito T, Kamura T, Yoshikawa H, A Multicentric Study; Conservative Treatment with High Dose Medroxyprogesterone Acetate(MPA) for Early Endometrial Cancer and Atypical Hyperplasia in Young Women. The 9th Biennial Meetings of the International

Gynecologic Cancer Society, Seoul, Korea. (2002.10.20~10.24)

6. Ota S, LI.Catusus, X.Matasis-Guiu, Kamura T, J.Pratt, Mollecurer Pathology of Atypical Polypoid Adenomyoma of the Endometrium. United Statets-Canadian Academy of Pathology Cicago, USA. (2002.2.2)

7. Komai K, Sugiyama T, Kamura T, Kigawa J, Itomachi H, Terakawa N, Does Second-Line Chemotherapy, Performed in Response to Marker Recurrence, Improve the Outcome of Ovarian Cancer? The 38th Annual Meeting American Society of Clinical Oncology Orland, USA. (2002.5.18~5.21)

8. Ushijima K, Kamura T, Kobayashi H, Nakano H, Shimamoto T, Yamashita H, Tsukamoto N, Saitoh T, Ishimatsu T, Moriyama S, Nakajima H, Katho H, Tamura K, Phase II Study of Docetaxel/Carboplatin for Epithelial Ovarian Cancer with Sensitive Relapse after Paclitaxel or Platinum Treatment-Interim Report- The 9th Biennial Meetings of the International Gynecologic Cancer Society Seoul, Korea. (2002.10.20~10.24)

9. Tsuda N, Ushijima K, Komai K, Sugiyama T, Itoh K, Kamura T, Phase I Clinical Trial of Peptide-Based Immuno-therapy for Patients with Recurrent Gynecologic Cancer. The 9th Biennial Meetings of the International Gynecologic Cancer Society Seoul, Korea. (2002.10.20~10.24)

#### 【藤堂 省 分担研究者】

10. Todo S (Guest Speaker), Technical aspects of LDLTx, "LDLTx for HCC". Loyola University School of Medicine, Chicago, USA. (2002.6.11)

11. Todo S (Invited Speaker), Use of Marginal /Expanded Donor in Liver Transplantation. Satellite Symposium to the International Liver Transplantation Society Eighth Congress, Chicago, USA. (2002.6.13)

12. Todo S (Invited Speaker), Technical pitfalls in adult LRD and Asian Registry. Adult to Adult Living Unrelated / Related Liver Transplantation, State-of-the-Art Symposia, XIX International Congress of the Transplantation Society, Fort Lauderdale, USA. (2002.8.27)

13. Todo S (Invited Speaker), Living-related Liver Transplantation. The 3<sup>rd</sup> Turkish National Transplantation Congress, Adana, Turkey. (2002.10.18)

【野口正典 分担研究者】

14. Noguchi M, Yahara J, Noda S, Serum levels of bone turnover markers parallel the results of bone scintigraphy in monitoring bone activity of prostate cancer, 26<sup>th</sup> Congress of the Societe Internationale d'Urologie, Stockholm, Sweaden. (2002.9.8~12.)

【山名秀明 分担研究者】

15. Toh U, Sayers TJ, Seki N, Shirouzu K, Yamana H: The synergy effects of proteasome inhibitor PS-341 and TRAIL on the apoptosis of human tumor cells. The 18<sup>th</sup> UICC International Cancer Congress, Oslo, Norway. (2002.6.30~7.5)

2-2. 国内学会発表(口頭・ポスター発表)

【伊東恭悟 主任研究者】

1. 伊東恭悟: ペプチド特異的T細胞同定に基づくペプチドによる癌特異免疫療法: 予防ワクチンから治療ワクチンへ. 第50回日本化学療法学会総会, 2002年5月9-11, 神戸

2. 伊東恭悟: テーラーメイド癌免疫治療: ゲノムからベッドへの先導役. 第102回日本外科学会定期学術集会, 2002年4月12-13, 京都

3. 伊東恭悟, 峯 孝志, 山名秀明, 佐藤裕二, 藤堂省, 岡 正朗: 上皮性癌ペプチドワクチンの臨床試験; 第一相から第二相へ. 第15回バイオセラピー学会学術集会総会, 2002年11月7-8, 札幌

4. 佐藤裕二, 正村祐紀, 前田好章, 近藤正男, 高橋周作, 伊東恭悟, 藤堂 省: 臨床的有効例よりみた胃癌、大腸癌に対するワクチン療法. 第15回バイオセラピー学会学術集会総会, 2002年11月7-8, 札幌

5. 正村祐紀, 佐藤裕二, 前田好章, 近藤正男, 高橋周作, 矢吹英彦, 山名秀明, 伊東恭悟, 藤堂 省: Precursor-oriented peptideワクチンが有効であった進行腎細胞癌の1例. 第15回バイオセラピー学会学術集会総会, 2002年11月7-8, 札幌

6. 伊東恭悟: 免疫療法: 過去の教訓と今後の展開. 第40回日本癌治療学会総会, 2002年9月10, 東京

7. 伊東恭悟: 上皮性癌ワクチンの臨床試験: 第一相

から第二相へ. 第61回日本癌学会総会, 2002年10月1-3, 東京

8. 七條茂樹, 東 公一, 小松誠和, 伊藤雅昭, 伊東恭悟: HLA-B46拘束性CTLに認識される癌抗原遺伝子と抗原ペプチド同定. 第61回日本癌学会総会, 2002年10月1-3, 東京.

9. 古賀 真, 七條茂樹, 山田 亮, 伊東恭悟: HLA-A26拘束性癌拒絶抗原としてのribosomal protein S2, L10aの同定. 第61回日本癌学会総会, 2002年10月1-3, 東京

10. 大河内眞也, 山田 亮, 原田 守, 七條茂樹, 貫和敏博, 伊東恭悟: 肺腺癌由来HLA-B52拘束性新癌拒絶抗原の同定. 第61回日本癌学会総会, 2002年10月1-3, 東京

11. 竹田津宏子, 東 公一, 七條茂樹, 伊東恭悟: HLA-A31拘束性CTLにより認識される癌拒絶抗原の同定. 第61回日本癌学会総会, 2002年10月1-3, 東京

12. 小林一彦, 原田 守, 野口正典, 伊東恭悟: HLA-A24陽性前立腺癌患者で細胞性・液性免疫を誘導するPSM由来抗原ペプチドの同定. 第61回日本癌学会総会, 2002年10月1-3, 東京

13. 岩本 修, 末藤祐一, 笹富輝男, 山名秀明, 伊東恭悟: 口腔癌に対するp56<sup>ck</sup>ペプチドワクチンの基礎研究. 第61回日本癌学会総会, 2002年10月1-3, 東京

14. 望月一生, 津田尚武, 牛嶋公生, 山名秀明, 伊東恭悟, 嘉村敏治: 再発婦人科癌に対するCTL precursor-oriented癌ペプチドワクチンの第一相臨床試験. 第61回日本癌学会総会, 2002年10月1-3, 東京

15. 小松誠和, 七條茂樹, 伊東恭悟: Fluorometric Microvolume Assay Technologyによる細胞性免疫・液性免疫モニタリング法. 第61回日本癌学会総会, 2002年10月1-3, 東京

16. 山田 亮, 峯 孝志, 合原るみ, 笹富輝男, 津田尚武, 望月一生, 田中聖子, 野口正典, 原田 守, 山名秀明, 伊東恭悟: HLA-A24陽性高度進行癌を対象とした癌ペプチドワクチンの第1相臨床試験. 第61回日本癌学会総会, 2002年10月1-3, 東京

17. 原田 守, 合原るみ, 伊東恭悟: システインを含むclass I 腫瘍ペプチドの二量体を認識するHLA-DR4拘束性CD4陽性T細胞. 第61回日本癌学会総会, 2002年

10月1-3, 東京

18. 七條茂樹, 東 公一, 小松誠和, 伊藤雅昭, 伊東恭悟: HLA-B46拘束性CTLに認識される癌抗原遺伝子と抗原ペプチドの同定. 第61回日本癌学会総会, 2002年10月1-3, 東京

19. 東 公一, 七條茂樹, 前田好章, 伊東恭悟: 大腸癌組織浸潤リンパ球由来HLA-B4601拘束性CTL株により認識される抗原ペプチドをコードする遺伝子の同定. 第61回日本癌学会総会, 2002年10月1-3, 東京

20. 山田 亮, 松本知子, 福田久丹恵, 伊東恭悟: ヒト用がんペプチドのマウスモデルにおける抗腫瘍効果とマスト細胞脱顆粒作用. 第32回日本免疫学会総会, 2002年12月4-6, 東京

21. 服部貴子, 小松誠和, 七條茂樹, 伊東恭悟: クレステチンの白血病細胞に対する傷害性の解析. 第32回日本免疫学会総会, 2002年12月4-6, 東京

22. 福田久丹恵, 山田 亮, 伊東恭悟: CTLエピトープとして同定された非変異型自己抗原ペプチドに反応性を示す自然抗体のマウスモデルでの解析. 第32回日本免疫学会総会, 2002年12月4-6, 東京

23. 河本直樹, 山田 亮, 伊東恭悟: 非変異型自己抗原ペプチドに対するIgG抗体のアトピー性皮膚炎患者における異常: 第32回日本免疫学会総会, 2002年12月4-6, 東京

24. 古田雅俊, 田村真由美, 錦織みさ, 末次典恵, 助廣亜希, 森永明子, 伊東恭悟: 大学主導型早期第Ⅱ相臨床試験におけるリサーチナースの役割. 日本がん看護学会, 2003年2月8-9, 大阪

25. 助廣亜希, 田村真由美, 末次典恵, 森永明子, 古田雅俊, 伊東恭悟: 癌ペプチドワクチン療法の看護上の留意点-再発婦人科癌の第Ⅰ相臨床試験を通して. 日本がん看護学会, 2003年2月8-9, 大阪

26. 末次典恵, 田村真由美, 助廣亜希, 森永明子, 野口正典, 伊東恭悟: 癌ペプチドワクチン療法を受ける再燃前立腺癌患者の看護~第Ⅰ相臨床試験を終えて~. 日本がん看護学会, 2003年2月8-9, 大阪

#### 【 岡 正朗 分担研究者 】

27. 鈴木伸明, 田中 聖子, 檜田 直也, 前田 好章, 峯 孝志, 山本光太郎, 裕 彰一, 丹黒 章, 伊東 恭悟, 岡 正朗: 膵癌に対するペプチドワクチン療法の可

能性. 第102回日本外科学会総会, 2002年4月11-13, 京都.

28. 山本光太郎, 上野富雄, 中邑光夫, 矢原 昇, 河岡 徹, 丹黒 章, 岡 正朗: 遠隔成績およびQOLからみた膵頭部浸潤性膵管癌に対する治療方針. 第102回日本外科学会総会, 2002年4月11-13, 京都.

29. 矢原 昇, 裕 彰一, 上野富雄, 山本光太郎, 中邑光夫, 鈴木伸明, 荒木厚博, 丹黒 章, 岡 正朗: 膵癌に対するMUC1-CTL療法におけるCTL誘導能の検討—移入細胞数と表面マーカーの解析より—. 第102回日本外科学会総会, 2002年4月11-13, 京都.

30. 鈴木伸明, 前田好章, 檜田直也, 田中聖子, 峯孝志, 山本光太郎, 裕 彰一, 丹黒 章, 伊東恭悟, 岡 正朗: 高度進行膵癌に対するペプチドワクチン療法. 第57回日本消化器外科学会総会, 2002年7月28-30, 京都.

31. 山本光太郎, 矢原 昇, 河岡 徹, 上野富雄, 岡 正朗: 膵癌に対する多角的免疫治療. 第33回日本膵臓学会大会, 2002年9月4-5, 仙台.

32. 山本光太郎, 裕 彰一, 吉野茂文, 吉村 清, 荒木厚博, 河岡 徹, 末廣 寛, 濱中裕一郎, 日野田裕治, 岡 正朗: 膵・胆管癌に対するMUC1ペプチドワクチン療法の第Ⅰ相試験. 第61回日本癌学会, 2002年10月1-3, 東京.

33. 山本光太郎, 上野富雄, 矢原 昇, 河岡 徹, 裕 彰一, 丹黒 章, 岡 正朗: 膵癌に対する多角的免疫治療戦略. 第40回日本癌治療学会, 2002年10月16-18, 東京.

34. 岡 正朗: 膵癌に対する免疫療法. 第40回日本癌治療学会, 2002年10月16-18, 東京.

35. 河岡 徹, 裕 彰一, 矢原 昇, 山本光太郎, 吉野茂文, 岡 正朗: 切除不能・再発膵癌に対する細胞・ワクチン療法併用の試み. 第15回バイオセラピー学会, 2002年11月7-8日, 札幌.

36. 山本光太郎, 鈴木伸明, 裕 彰一, 吉野茂文, 矢原 昇, 荒木厚博, 河岡 徹, 末廣 寛, 濱中裕一郎, 日野田裕治, 岡 正朗: 膵癌に対する癌ペプチドワクチン療法第Ⅰ相試験の成績. 第15回バイオセラピー学会, 2002年11月7-8日, 札幌.

37. 伊東恭悟, 峯 孝志, 山名秀明, 佐藤裕二, 藤堂

省、岡 正朗:上皮性癌ペプチドワクチンの臨床試験; 第一相から第二相へ. 第15回バイオセラピー学会, 2002年11月7-8日, 札幌.

38. 山本光太郎、上野富雄、矢原 昇、河岡 徹、碓 彰一、丹黒 章、岡 正朗:膵癌に対する外科治療成績と今後の治療戦略. 第64回日本臨床外科学会, 2002年 11月13-15, 東京.

【 嘉村敏治 分担研究者 】

39. 嘉村敏治:卵巣腫瘍. 第54回日本産科婦人科学会 総会, 2002年4月6-9, 東京

40. 津田尚武, 河野光一郎, 望月一生, 牛嶋公生, 駒 井幹, 品川敦彦, 山名秀明, 杉山徹, 西田敬, 伊東恭 悟, 嘉村敏治:高度進行再発婦人科癌に対する CTLprecursor-oriented 癌ペプチドワクチンの第一相臨 床試験. 第 54 回日本産科婦人科学会総会, 2002 年 4 月 6-9, 東京

41. 品川敦彦, 松尾剛, 牛嶋公生, 杉山徹, 西田敬, 嘉村敏治:ラット正常卵胞におけるシスプラチン(CDDP) 投与時の経時的組織変化についての検討. 第 54 回日 本産科婦人科学会総会, 2002 年 4 月 6-9, 東京

42. 駒井幹, 杉山徹, 大田俊一郎, 牛嶋公生, 西田敬, 嘉村敏治:上皮性卵巣癌において CA125 での早期再 発診断は予後を改善するか? 第54回日本産科婦人科 科学会総会, 2002 年 4 月 6-9, 東京

43. 松尾剛, 平井伸幸, 駒井幹, 牛嶋公生, 杉山徹, 西田敬, 嘉村敏治:早期卵巣明細胞癌に対する治療と 予後に関する検討. 第54回日本産科婦人科学会総会, 2002 年 4 月 6-9, 東京

44. 嘉村敏治:子宮体癌における傍大動脈リンパ節廓 清後の長期予後について. 第33回日本婦人科腫瘍学 会総会, 2002年11月28-29, 東京

45. 津田尚武, 望月一生, 河野光一郎, 助廣亜希, 牛 嶋公生, 山田亮, 山名秀明, 嘉村敏治, 伊藤恭悟:再 発婦人科癌に対するCTLprecursor-oriented癌ペプチ ドワクチンの第一相臨床試験. 第6回基盤の癌免疫研究 総会, 2002年7月16-17, 久留米市

46. 松尾剛, 牛嶋公生, 太田俊一郎, 駒井幹, 藤吉啓 造, 嘉村敏治:子宮頸癌における抗癌剤併用放射線療 法についての検討—放射線単独療法との比較—. 第 32回日本婦人科腫瘍学会総会, 2002年7月25-27, 北 九州市

47. 寺田貴武, 松尾剛, 駒井幹, 牛嶋公生, 杉山徹, 西田敬, 嘉村敏治:Broad nignament tumor of probable wolffian originの一例. 第32回日本婦人科腫瘍学会総会, 2002年7月25-27, 北九州市

48. 嘉村敏治:標準的治療の評価と問題点. 第40回日本 癌治療学会総会, 2002年10月16-18, 東京

49. 望月一生, 津田尚武, 牛嶋公生, 山名秀明, 伊東 恭悟, 嘉村敏治:再発婦人科癌に対するCTL precursor-oriented ペプチドワクチンの第一相臨床試 験. 第61回日本癌学会総会, 2002年10月1-3, 東京

50. 杉山徹, 井筒俊彦, 駒井幹, 藤吉啓造, 牛嶋公生, 嘉村敏治:局所進行子宮頸部癌に対するNeoadjuvant Chemotherapyの効果. 第40回日本癌治療学会総会, 2002年10月16-18, 東京

51. 金森康展, 大石徹郎, 紀川純三, 大和田倫孝, 鈴 木光明, 杉山徹, 嘉村敏治, 喜多恒和, 菊池義公, 藤 原恵一, 河野一郎, 寺川直樹:進行子宮内膜癌におけ るPTEN発現と予後. 第40回日本癌治療学会総会, 2002年10月16-18, 東京

52. 駒井幹, 大田俊一郎, 牛嶋公生, 嘉村敏治, 杉山 徹, 紀川純三, 板持広明, 寺川直樹:卵巣癌のMarker recurrenceに対するsecond-line chemotherapy は予後 を改善するか. 第40回日本癌治療学会総会, 2002年 10月16-18, 東京

53. 品川敦彦, 牛嶋公生, 杉山徹, 嘉村敏治, 松尾剛, 西田敬:シスプラチン(CDDP)投与時のラット正常卵胞 の経時的組織変化についての検討. 第40回日本癌治 療学会総会, 2002年10月16-18, 東京

【 七條茂樹 分担研究者 】

54. 七條茂樹, 東 公一, 小松誠和, 伊藤雅昭, 伊 東恭悟:HLA-B46拘束性CTLに認識される癌抗原 遺伝子と抗原ペプチド同定. 第61回日本癌学会総会, 2002年10月1-3, 東京.

55. 古賀 真, 七條茂樹, 山田 亮, 伊東恭悟:HLA-A26 拘束性癌拒絶抗原としてのribosomal protein S2, L10aの 同定. 第61回日本癌学会総会, 2002年10月1-3, 東京.

56. 大河内眞也, 山田 亮, 原田 守, 七條茂樹, 貫和敏 博, 伊東恭悟:肺腺癌由来HLA-B52拘束性新析癌拒絶 抗原の同定. 第61回日本癌学会総会, 2002年10月1-3, 東京.



57. 竹田津宏子, 東 公一, 七條茂樹, 伊東恭悟: HLA-A31拘束性CTLにより認識される癌拒絶抗原の同定. 第61回日本癌学会総会, 2002年10月1-3, 東京.
58. 小松誠和, 七條茂樹, 伊東恭悟: Fluorometric Microvolume Assay Technologyによる細胞性免疫・液性免疫モニタリング法. 第61回日本癌学会総会, 2002年10月1-3, 東京.
59. 七條茂樹, 東 公一, 小松誠和, 伊藤雅昭, 伊東恭悟: HLA-B46拘束性CTLに認識される癌抗原遺伝子と抗原ペプチドの同定. 第61回日本癌学会総会, 2002年10月1-3, 東京.
60. 東 公一, 七條茂樹, 前田好章, 伊東恭悟: 大腸癌組織浸潤リンパ球由来HLA-B4601拘束性CTL株により認識される抗原ペプチドをコードする遺伝子の同定. 第61回日本癌学会総会, 2002年10月1-3, 東京.
61. 服部貴子, 小松誠和, 七條茂樹, 伊東恭悟: クレスチンの白血病細胞に対する傷害性の解析. 第32回日本免疫学会総会, 2002年12月4-6, 東京
- 【 藤堂 省 分担研究者 】
62. 藤堂 省: 肝癌の治療、第3回「フォーラム新世紀の消化器癌外科治療」、2002.1.12、千葉市.
63. 藤堂 省: 肝細胞癌に対する肝移植、第48回徳島肝・胆・膵画像診断臨床病理カンファレンス、2002.1.25、徳島市.
64. 藤堂 省: 肝細胞癌と肝移植、第11回福岡大学第三内科消化器セミナー、2002.1.30、福岡市.
65. 藤堂 省: 特別企画6 本庄一夫記念・肝膵シンポジウム「肝細胞癌と肝移植」、第102回日本外科学会定期学術集会、2002.4.13、京都市.
66. 藤堂 省: 肝臓癌と肝移植、第1回周術期管理セミナー—生体肝移植をめぐる—、2002.4.13、名古屋市.
67. 藤堂 省: 肝臓癌の肝移植、第5回肝癌再発予防研究会、2002.5.10、豊中市.
68. 藤堂 省: 生体肝移植の現況について、札幌医科大学第4内科、2002.5.21、札幌市.
69. 藤堂 省: 肝臓癌の肝移植、肝がん撲滅運動学術講演会、2002.5.24、札幌市.
70. 藤堂 省: 臓器移植における動物実験の重要性、日本実験動物技術者協会第36回総会札幌、2002.6.21、札幌市.
71. 藤堂 省: いのちの贈り物、札幌聖心女子学院父の会、2002.7.6、札幌市.
72. Sato Y, Maeda Y, Sasatomi T, Takahashi M, Une Y, Kondo M, Shinohara T, Hida N, Katagiri K, Sato K, Sato M, Yamada A, Yamanma H, Itoh K, Todo S, A phase I trial of CTL-precursor-oriented peptide vaccine for colorectal carcinoma patients. The 6<sup>th</sup> Annual Meeting of SFCI, Kurume, Japan. (2002.7.16-7.17)
73. 佐藤裕二, 前田好章, 正村裕紀, 篠原敏樹, 近藤正男, 高橋昌宏, 宇根良衛, 伊東恭悟, 藤堂省: 消化器癌Precursor oriented vaccine 第1相臨床試験(研究室からオーダーメイド医療へ), 第57回日本消化器外科学会総会, 2002年7月28-30, 京都.
74. 藤堂 省: 院内コーディネーター・ドナーアクションに向けて(ドナーアクションの勉強会)、手稲溪仁会病院、2002.8.7、札幌市.
75. 藤堂 省: ドナーアクションプログラムの推進について(ドナーアクションの勉強会)、中村記念病院、2002.8.22、札幌市.
76. 藤堂 省: 命の贈り物—北海道における移植医療を考える—、名寄市移植フォーラム、2002.9.6、名寄市.
77. 藤堂 省: 小腸移植の現況と将来、Ono Tokyo Forum 2002、2002.9.7、東京都.
78. 藤堂 省: ドナーアクションプログラム推進について(ドナーアクションの勉強会)、函館市立病院、2002.9.13、函館市.
79. 藤堂 省: ドナーアクションプログラム推進について(ドナーアクションの勉強会)、北見赤十字病院、2002.9.18、北見市.
80. 藤堂 省: ドナーアクションプログラム推進について(ドナーアクションの勉強会)、日鋼記念病院、2002.9.25、室蘭市.
81. 藤堂 省: なぜドナーアクションなのか(ドナーアクションの勉強会)、釧路労災病院、2002.9.27、釧路市.
82. 藤堂 省: わが国の移植医療を考える、第40回日

本人工臓器学会大会、2002.10.3、札幌市。

83. 藤堂 省: 生命の贈り物～移植医療をすすめるために～、日本消化器病学会北海道支部第19回市民公開講座、2002.10.4、釧路市。

84. 藤堂 省: なぜドナーアクションプログラムなのか(ドナーアクションの勉強会)、帯広厚生病院、2002.10.7、帯広市。

85. 藤堂 省: 臓器不足とその対策、北大移植セミナー、2002.10.9、札幌市。

86. 藤堂 省: なぜドナーアクションプログラムなのか(ドナーアクションの勉強会)、旭川赤十字病院、2002.10.10、旭川市。

87. 佐藤裕二、前田好章、正村裕紀、宇根良衛、高橋昌宏、近藤正男、高橋周作、山名秀明、伊東恭悟、藤堂省: 胃癌、大腸癌に対するPrecursor-oriented peptideワクチン療法。第40回癌治療学会総会、2002年10月16-18、東京。

88. 佐藤裕二、正村裕紀、前田好章、近藤正男、高橋周作、伊東恭悟、藤堂省: 臨床的有効例よりみた胃癌、大腸癌に対するワクチン療法。第15回日本バイオセラピー学会総会、2002年11月7-8、札幌。

89. 藤堂 省: 生命の贈り物、スーパー・サイエンス・ハイスクール事業、札幌市、2002.11.15、札幌北高。

90. 藤堂 省: 肝細胞癌と肝移植、第5回多摩外科がんフォーラム、2002.11.16、東京都。

91. 藤堂 省: 生命の贈り物、第16回中央区PTA連合会研修会、札幌市立三角山小学校、2002.11.22、札幌市。

92. 藤堂 省: 癌と肝移植、第80回日本消化器病学会九州支部例会・第74回日本消化器内視鏡学会九州支部例会、2002.11.29、佐賀市。

#### 【野口正典 分担研究者】

93. 野口正典、末金茂高、富安克郎、山田 亮、山名秀明、伊東恭悟、野田進士: 再燃前立腺癌への癌ペプチドワクチンと抗癌剤併用療法の試み、第40回日本癌治療学会総会、2002年10月16-18、東京。

94. 末金茂高、野口正典、中島 収、神代正道、野田進士: 前立腺針生検所見の数量化による摘出前立腺の

病理組織学的結果ならびに術後PSA再発の予知、第40回日本癌治療学会総会、2002年10月16-18、東京。

95. 末金茂高、野口正典、野田進士: 前立腺全摘を施行したT3前立腺癌の予後規定因子、第54回日本泌尿器科学会西日本総会、2002年12月12-14、沖縄

96. 矢原淳郎、野口正典、野田進士: 進行性前立腺癌の骨転移病巣評価における骨代謝マーカーの有用性の検討、第54回日本泌尿器科学会西日本総会、2002年12月12-14、沖縄

97. 野口正典、野田進士: 術後尿失禁防止ならびに早期尿道留置カテーテル抜去可能な前立腺全摘術への工夫: 恥骨前立腺靭帯温存法、第54回日本泌尿器科学会西日本総会、2002年12月12-14、沖縄

98. 山口晃弘、出口大輔、森 健策、目加田慶人、鳥脇純一郎、野口正典: 前立腺針生検シミュレーションシステムの開発と検査の有効性評価への応用、第41回日本エム・イー学会大会、2002年5月9-11、京都

99. 末次典恵、田村真由美、助廣亜希、森永明子、野口正典、伊東恭悟: 癌ペプチドワクチン療法を受ける再燃前立腺癌患者の看護～第I相臨床試験を終えて～、日本がん看護学会、2003年2月8-9、大阪

#### 【山名秀明 分担研究者】

100. 唐 宇飛、末吉 晋、田中克明、吉田祥吾、笹富輝男、峯孝志、藤田博正、白水雄、山名秀明: 患者自己CTL癌局所注入後の末梢血リンパ球をクローニングした食道癌症例1例。第6回癌特異的免疫療法研究会(2002.02..25.東京)

101. 笹富輝男、唐 宇飛、宮城佳昭、荒木靖三、緒方裕、山名秀明、白水雄: 直腸癌局所再発例に対する自己活性化リンパ球による細胞免疫療法の試み。第6回癌特異的免疫療法研究会(2002.02..25.東京)

102. 唐 宇飛、田中寿明、峯孝志、主藤朝也、末吉晋、藤田博正、白水雄、山名秀明: KIS-1 モノクロナール交代による食道扁平上皮癌の組織診断。第2回食道癌セミナー「遺伝子解析によるリンパ節転移の検討」(2002.02.02.大阪)

103. 藤井輝彦、山名秀明、田中優一、田中寿明、唐宇飛、末吉 晋、藤田博正、白水雄、鬼原 史、前仏均、古川洋一、中村祐輔: 食道扁平上皮癌における増殖関連因子と抗癌剤の効果に関する検討。第35回制癌剤適応研究会(2002.02.08.名古屋)

104. 中川志乃, 藤井輝彦, 古賀稔啓, 弥永浩, 横山吾郎, 出口博子, 小池健太, 白水雄, 山名秀明: レチノイドの乳癌培養細胞株SKBR-3に対する抗腫瘍効果の基礎的検討。  
第102回日本外科学会総会(サージカルフォーラム)(2002.04.11-13. 京都)
105. 笹富輝男, 宮城佳昭, 的野敬子, 岸本幸也, 中川元典, 福光賞真, 唐 宇飛, 峯 孝志, 金澤昌満, 石橋生哉, 荒木靖三, 緒方 裕, 山名秀明, 伊東恭悟, 白水雄: 進行再発大腸癌を対象としたCTL precursor-oriented cancer vaccine therapyの試み。  
第102回日本外科学会総会(サージカルフォーラム)(2002.04.11-13. 京都)
106. 田中寿明, 的野 吾, 末吉 晋, 山名秀明, 藤田博正, 白水雄: 食道癌におけるPPAR $\gamma$ リガンドによる増殖抑制効果。  
第102回日本外科学会総会(2002.04.11-13. 京都)
107. 主藤朝也, 藤井輝彦, 末吉 晋, 田中寿明, 唐宇飛, 藤田博正, 白水雄, 伴 茂樹, 豊永 純, 山名秀明: Vasculer Index (vi), VEGF発現を指標とした食道癌EMR症例の再発, 予後に関する検討。  
第102回日本外科学会総会(2002.04.11-13. 京都)
108. 出口博子, 藤井輝彦, 古賀稔啓, 弥永 浩, 中川志乃, 小池健太, 横山吾郎, 白水雄, 山名秀明: ヒト乳癌細胞株におけるカテキンの増殖抑制効果の検討。  
第102回日本外科学会総会(2002.04.11-13. 京都)
109. 的野 吾, 藤田博正, 末吉 晋, 田中寿明, 峯孝志, 主藤朝也, 山名秀明, 白水雄: 食道癌根治術頸胸腹3領域リンパ節郭清症例における術後補助化学療法の有効性。  
第102回日本外科学会総会(2002.04.11-13. 京都)
110. 峯孝志, 山名秀明, 伊東恭悟, 白水雄: 癌ワクチン療法臨床試験患者における末梢血リンパ球表面マーカーの変動。  
第102回日本外科学会総会(2002.04.11-13. 京都)
111. 末吉 晋, 田中寿明, 的野 吾, 主藤朝也, 笹原弘子, 唐 宇飛, 峯孝志, 藤井輝彦, 山名秀明, 藤田博正, 白水雄: 鏡視下手術を目指して一胸筋温存開胸とHALSによる胸部食道癌手術。  
第102回日本外科学会総会(ビデオ・セッション)(2002.04.11-13. 京都)
112. 的野 吾, 田中寿明, 末吉 晋, 唐 宇飛, 笹原弘子, 山名秀明, 藤田博正, 白水雄: 胃全摘術後のパレット潰瘍・狭窄の1手術例。  
第39回九州外科学会(2002.05.31-06.01, 沖縄)
113. 吉村 文博, 末吉 晋, 田中寿明, 唐 宇飛, 笹原弘子, 山名秀明, 藤田博正, 白水雄: 血球貪食症候群を合併した食道癌の2例。  
第39回九州外科学会(2002.05.31-06.01, 沖縄)
114. 笹富輝男, 宮城佳昭, 荒木靖三, 緒方 裕, 山名秀明, 伊東恭悟, 白水雄: 免疫治療に関する最新の知見; 基礎および臨床。  
第11回日本癌病態治療研究会(シンポジウム)(2002.06.18-19, 東京)
115. 田中寿明, 的野 吾, 山名秀明, 末吉 晋, 藤田博正, 白水雄: Gap junction 蛋白陽性-陰性細胞間における細胞間communicationとbystander effect。  
第11回日本癌病態治療研究会(2002.06.18-19, 東京)
116. 唐 宇飛, 田中寿明, 笹原弘子, 峯 孝志, 主藤朝也, 的野 吾, 末吉 晋, 藤田博正, 平城 守, 堀内彦之, 白水雄, 山名秀明: 食道癌術後肝転移症例に対する局所細胞免疫療法の試み。  
第24回日本癌局所療法研究会(2002.06.18-19, 東京)
117. 主藤朝也, 藤井輝彦, 末吉 晋, 田中寿明, 笹原弘子, 山名秀明, 藤田博正, 白水雄: 食道表在癌における新生血管とVEGF発現の臨床病理学的検討。第48回食道色素研究会(2002.06.26. 広島)
118. 田中寿明, 藤田博正, 末吉 晋, 唐 宇飛, 笹原弘子, 主藤朝也, 的野 吾, 山名秀明, 白水雄: 他臓器浸潤T4食道癌に対する化学放射線療法。  
第56回日本食道疾患研究会(2002.06.27-28, 広島)
119. 笹原弘子, 末吉 晋, 田中寿明, 的野 吾, 主藤朝也, 峯孝志, 山名秀明, 藤田博正, 白水雄: 表在型食道癌に対する光線力学的療法(PDT)の検討。第56回日本食道疾患研究会(2002.06.27-28, 広島)
120. 唐 宇飛, 田中寿明, 笹原弘子, 峯 孝志, 主藤朝也, 的野 吾, 末吉 晋, 藤田博正, 平城 守, 堀内彦之, 白水雄, 山名秀明: 食道癌術後肝転移症例に対する局所細胞免疫療法の試み。  
第24回癌局所療法研究会(2002.07.12, 横浜)
121. 末吉 晋, 田中寿明, 笹原弘子, 的野 吾, 主藤朝也, 山名秀明, 藤田博正, 白水雄: 胸筋温存開胸とHALSによる胸部食道癌手術。

第35回日本胸部外科学会九州地方会(ミニシンポジウム)(2002.07.25, 福岡)

122. 李 美慧、主藤朝也、末吉 晋、田中寿明、笹原弘子、山名秀明、藤田博正、白水和雄:食道癌術後逆流性食道炎のpHモニター。

第35回日本胸部外科学会九州地方会(2002.07.25, 福岡)

123. 池田浩太郎、田中寿明、主藤朝也、的野 吾、笹原弘子、末吉 晋、藤田博正、山名秀明、白水和雄:食道癌再発例のタキソテル併用療法執刀。

第35回日本胸部外科学会九州地方会(2002.07.25, 福岡)

124. Sato Y, Maeda Y, Sasatomi T, Takahashi M, Une Y, Kondo M, Shinohara T, Hida N, Katagiri K, Sato K, Yamada A, Yamana H, Itoh K, Todo S: A phase I trial of CTL-precursor-oriented peptide vaccine for colorectal carcinoma patients.第6回基盤的癌免疫療法研究会総会(ワークショップ)(2002.07.16-17, 久留米)

125. 津田尚武、望月一生、河野光一郎、助廣亜希、牛島公生、山田 亮、山名秀明、嘉村敏治、伊東恭悟:再発婦人科癌に対するCTL-precursor-oriented癌ペプチドワクチンの第一相臨床試験。

第6回基盤的癌免疫療法研究会総会(ワークショップ)(2002.07.16-17, 久留米)

126. 峯 孝志、合原るみ、檜田直也、東 公一、力丸徹、高森信三、片桐和子、錦織みさ、助廣亜希、山田亮、相澤久道、白水和雄、伊東恭悟、山名秀明:進行肺癌患者に対するCTL precursor-orientedペプチドワクチン第一相臨床試験。

第6回基盤的癌免疫療法研究会総会(ワークショップ)(2002.07.16-17, 久留米)

127. 末次典恵、野口正典、田村真由美、錦織みさ、助廣亜希、森永明子、土谷映子、古田雅俊、片桐和子、峯 孝志、山田 亮、原田 守、野田進士、山名秀明、伊東恭悟:再燃前立腺癌患者の癌ペプチドワクチン療法。第6回基盤的癌免疫療法研究会総会(ワークショップ)(2002.07.16-17, 久留米)

128. 末吉 晋、田中寿明、笹原弘子、的野 吾、唐 宇飛、主藤朝也、山名秀明、藤田博正、白水和雄:食道癌外科的治療の適応と限界。

第57回日本消化器外科学会総会(シンポジウム)(2002.07.28-30, 京都)

129. 峯 孝志、山名秀明、白水和雄、伊東恭悟:がんワクチン療法臨床試験におけるTranslational research

の経験と今後の展望。

第57回日本消化器外科学会総会(シンポジウム)(2002.07.28-30, 京都)

130. 笹原弘子、末吉 晋、田中寿明、的野敬子、唐宇飛、主藤朝也、峯 孝志、藤田博正、山名秀明、白水和雄:食道癌におけるステント治療-予後とQOL. 第57回日本消化器外科学会総会(2002.07.28-30, 京都)

131. 唐 宇飛、末吉 晋、田中寿明、峯 孝志、笹原弘子、主藤朝也、的野 吾、藤田博正、白水和雄、山名秀明:CD4+CD25+T細胞分画による癌患者自己培養リンパ球活性への影響。

第57回日本消化器外科学会総会(2002.07.28-30, 京都)

132. 田中寿明、藤田博正、末吉 晋、唐 宇飛、笹原弘子、主藤朝也、的野 吾、山名秀明、白水和雄:T4食道癌に対する化学放射線療法。

第57回日本消化器外科学会総会(2002.07.28-30, 京都)

133. 笹富輝男、宮城佳昭、金澤昌満、的野敬子、峯孝志、荒木靖三、緒方 裕、山名秀明、伊東恭悟、白水和雄:術後再発大腸癌に対するCTL precursor oriented cancer vaccine therapy臨床第一相試験。

第57回日本消化器外科学会総会(2002.07.28-30, 京都)

134. 主藤朝也、藤田博正、藤井輝彦、末吉 晋、田中寿明、唐 宇飛、笹原弘子、的野 吾、山名秀明、白水和雄:胸部上部食道癌症例におけるリンパ節微小転移の検討。

第57回日本消化器外科学会総会(2002.07.28-30, 京都)

135. 山田 亮、峯 孝志、合原るみ、笹富輝男、津田尚武、望月 一生、田中 聖子、野口 正典、原田 守、山名 秀明、伊東 恭悟:HLA-A24陽性高度進行癌を対象とした癌ペプチドワクチンの第1相臨床試験。第61回日本癌学会総会(2002.10.01-03, 東京)

136. 岩本 修、末藤 祐一、笹富輝男、山名 秀明、伊東 恭悟:口腔癌に対するp56<SUP>lck</SUP>ペプチドワクチンの基礎的研究。

第61回日本癌学会総会(2002.10.01-03, 東京)

137. 望月 一生、津田 尚武、牛嶋 公生、山名 秀明、伊東 恭悟、嘉村 敏治:再発婦人科癌に対するCTL precursor-oriented癌ペプチドワクチンの第一相臨床試験。

第61回日本癌学会総会(2002.10.01-03, 東京)

138. 野尻 久雄、山名 秀明:内因性分化誘導物質GM3に惹起されるヒト大腸癌細胞のp53非依存性分化